

NEC離脱で混迷 国策パソコン開発

背景
 日本の存在感の希薄化
 文部省としては「今後の科学技術の発展や、国際競争力の向上に極めて重要」との考えのもと、世界最速を目指す
 スパコンランキング
 1999年にシェア11.2%で世界2位
 2009年6月は3%に凋落
 日本
 アメリカ
 スパコンのトップ10をほぼ独占、6割程度のシェア
 中国
 トップ5入り(10年前にはランク外)

出典：週刊東洋経済
 2009/8/29号 P30
 スペシャルレポート
 本誌：麻田真衣

文部科学省
 世界最速を目指す
 1154億円の研究開発費(2006~12年)
 富士通
 システム詳細設計の終了時点で離脱を表明
 日立製作所
 NEC
 NECが一部機能の開発を委託していた
 理化学研究所

NECの撤退
 CPU生産段階で100億程度の自社負担発生
 09年3月期、2966億円の赤字状態
採算性の低さ
 08年度のスパコン販売は48台
プロジェクトへの懸念
 NECは「ベクトル型」を採用しているが主流は「スカラ型」
 理研の渡辺プロジェクトリーダー
 「NECのベクトル部と富士通のスカラ部の接続部分に問題があると指摘され、スカラ部だけを採用の可能性もあった」と作業部会で

富士通の負担増
 生産段階で1000人以上の技術者を投入
 国費だけでは賅えず、研究開発費以外にも費用を捻出
 「費用負担は厳しい(中略)歯を食いしばって完成させる」伊東副会長
 井上スーパーコンピュータ整備推進室長
文部科学省の見解
 10年の試験稼働に問題はない

撤退によるムダ金
 800億がメーカーに
 NECが使った金額は不明
 国から拠出されたお金
 建設中の施設の変更などで追加費用が発生する恐れ
利用者側の困惑
 ベクトル部
 利用予定者側でもソフトウェアの大幅変更が必要
 東京大学気候システム研究センター
 スカラ部
 利用期間が5年と限られているため、研究に支障が出るかも...という声も
 北陸先端科学技術大学院大学

完成後の利用のあり方を検討する
 戦略委員会
 寺倉教授の指摘
 ユーザである研究者や企業の意見を聞いてから開発計画を始めるべき
 文部科学省のトップダウン方式と、コントロールのように速さを競う姿勢に疑問
問題は速さではなく、完成後の利用のあり方
 世界1位になっても名誉を保てるのは一瞬、本来必要なのは利用者としてそれによって得られる対価を重視した計画のあり方ではないのか？